

2006. 8. 7 (月) 発行

新入社員はコミュニケーション志向？

いくつかの団体で、2006年度の新入社員の意識調査が行われました。2000年前後の同種の調査結果では、個人主義的傾向が強く、たとえば

- ・ 会社の運動会などの親睦行事は、できれば参加したくない。
- ・ 社外でのコミュニケーション（終業後の飲み会）には参加したくない。

という回答が高い水準にありました。

このような傾向は徐々に減少し、今回の調査では過去最低の水準を記録しています。

担当したい仕事についても「個人の成果が直接成果に結びつく職場」よりも「チームを組んで成果を分かち合える職場」を希望する回答が高くなっています。

改正高齢法の気になる？ 質問

Q. 高齢雇用確保措置が講じられていない企業については、**企業名の公表**などは行われるのでしょうか？

A. 改正法においては、制裁的な公表措置はありませんが、情報公開法に基づく情報公開請求があった場合は、その具体的内容にもよりますが、資料が存在する場合には、企業名が公表されることもありうるかと考えています。（厚生労働省）

●300人未満規模企業についても、順次、施行後の個々の企業の導入状況を把握し、必要な助言・指導を行っているところですが、全体の導入状況等については、高齢法に基づき各企業から本年6月1日時点の状況について報告いただき、取りまとめを行うことにしています。（山口労働局職業対策課）

先週の主として私の感じたこと

8月1日から3日間、萩の夏祭りが今年も盛大に開催された。天気も非常に良く、花火を含めた祭りの進行は予定通り、関係者一同ホッとされたのでは。ご苦労様でした。誰かの歌にもあったが「祭りのあとの寂しさ」、やはり祭りが終わるとなんとなく一抹の寂しさを感じる。私の事務所は東田町のテナントビルの一画、祭りのメイン会場となる道路に面して、殊に2日の夜は「ヨイショコショ踊り」で非常に賑やか。道路に屋台がずらっと並び、私でもウキウキしてくる。思い出すのは子供が小さかった頃の祭り。楽しい思い出もたくさんある。子供に楽しませて貰ったようなもの。そんな子供も20歳と16歳、やはり一抹の寂しさを感じる祭りであった。

まつばら

松原満和労働法務事務所
株式会社 満和トータルソリューション
〒758-0047
山口県萩市東田町12番地 ジョイフルポルタ 2F
TEL:0838-21-1033 FAX:0838-22-1525
E-mail: manwa.matubara55@cpst.plala.or.jp

先週の 日経新聞ダイジェスト

●離婚時の年金分割 妻の受給額、事前に通知

会社員の夫と離婚したいが、自分は年金をいくらもらえるのか。来年4月から離婚時の厚生年金の分割が始まるのを前に、社会保険庁は10月から、こんな問い合わせに答えることを決めた。結婚していた期間や妻が会社員だった時期に払った保険料などを勘案し、年金を夫と分割した場合の額を通知する。

●ハローワーク求人「正社員に変更を」

厚生労働省はハローワークに非正社員求人を出す企業に対し、正社員求人へ切り替えるように促す。3週間応募のない求人を出したすべての企業の担当者に対してハローワーク職員が面談し、契約形態や賃金など求人内容を見直すよう助言する。雇用の回復で職探しをする人の正社員志向が高まっているためだ。

●働きやすい会社 2006

日本経済新聞社が主要な企業を対象に実施した2006年の「働きやすい会社」調査のランキングで、松下電器産業が2年連続で首位になった。2位は日本ヒューレットパカード(HP)、3位は大日本印刷。子育て支援や介護休業など少子高齢化に対応した制度を整備した企業が上位を占めた。

●冷海水の影響で入荷増、鮮魚卸値が下落

鮮魚の卸値が下落している。7月4週(21-27日)の東京・築地市場の卸値(中値)はスルメイカが前月比4%安い1キロ374円と今シーズン最安値圏。マイワシも311円と17%、カツオは231円と63%値下がりした。北上した魚群が親潮などの冷たい海水に阻まれるなどして水揚げ量がまとまりだした。

年収300万円時代を楽しく？生き抜く

シ 二係数、いわゆる所得などの「不平等度」を測る指標で、平等であれば0に近づき、不平等であれば1に近づく係数のことです。厚生労働省の「所得再分配調査」によれば平成2年の0.4334から平成14年の0.4983に上昇(3年毎の調査で直近の資料未入手)し、その係数は現在さらに高くなっていると推測されます。係数が0.5ということは国民の総所得の75%を上所得層25%の人だけで占める状態のことです。今の日本は正にパレートの80対20の法則「社会の富の80%を国民の20%の人々が所有し、残りの20%の富を80%の国民が分かち合っている」状態に近づいていると言えるでしょう。つまり**1970年代の「1億総中流化の時代」が終わり、「年収300万円時代を楽しく生き抜く」時代、即ち「階層化・下流化の時代」へと日本は変わりつつあるようです。**